



青山学院女子短期大学

Aoyama Gakuin Women's Junior College

二〇一〇年度

女子短期大学入学式告辞

学長 谷本 信也

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。青山学院女子短期大学を代表し心からお祝いを申し上げます。

本日この入学式のお祝いの言葉として、これから皆さんが過ごす学生生活が豊かで充実したものとなることを願って、専攻科の皆さんには本科入学式と重なる点もございですが、本学の歴史と教育理念と、あわせてこれからの学問と自分作りについて、お話致すこととします。

青山学院の歴史は、ただいま院長代行半田正夫先生の式辞で紹介されたとおりであります。スクーレンメーカー先生により始められた女子小学校は女子高等教育へと発展を続け、女子専門学校へ連なるその歴史を誇っております。教育内容も単なる知識の伝達にとどまってはいませんでした。明治初期の海岸女学校でも、自然科学系

授業を多く開講した一般教養重視の授業を行い、さらに、寄宿舎での生活を教員と一緒に送る家庭的な共同体の中での全人的な教育を進めておりました。

1950年、青山学院女子専門学校は、国文専攻、英文専攻をもつ文科と家政科からなる、青山学院女子短期大学として、新たに発足しました。学則には、人格を築き高く香ばしい教養と実際に役立つ専門の学芸を授けることが、うたわれています。このように本学の教育の特色は、キリスト教信仰に基づいた教養教育にあるといえます。その後定めました本学の教育理念は皆様がお持ちの式次第に載っておりますが、端的に述べますと、「全人的で世界的な視野に立つ高度な教養教育を行い、愛と奉仕に生き、社会に積極的な貢献をなし得る覚醒した女性の育成を目指す」と申せましょう。これは、

単に専門科目を学び、得られた知識をもって社会で活躍する女性を世に送り出すということとはまったく異なります。

皆さんは本学で六つの学科または専攻科のうち、いずれかに所属し、必修あるいは選択科目に区分されている専門科目を学ぶこととなります。ただし、専攻科生を除く本科の学生は、卒業までにそれから専門科目以外に、全学科共通の共通教育科目を18単位から26単位以上学ばねばなりません。すべての大学でこのように専門科目以外のいわゆる一般教育科目を開講し履修を課しています。本学ではこの共通教育科目を重視し、他校より多くの多様な科目を開設しております。しかし、全人的で世界的な視野に立つ高度な教養教育とはこれにとどまりません。すべての授業そのものが教育理念にあわせて全人的で世界的な視野に立つものであり、授業以外の課外活動等もまた、教育理念に沿ったものがあります。必修のキリスト教教育にしてもそうであり、キリスト教活動に関する礼拝、講演会、音楽鑑賞会、ボランティア活動、合宿、などキリスト教関連行事もまた、

沿ったものであります。教員のアドバイザーによる助言・指導もあ
ります。また、学生の皆さんが主
体的に取り組む、学友会活動、サ
ークル活動、講習会、青山祭実行
委員会による青山祭なども多くを
学ぶ機会となります。さらに、学
生部や学友会によるプレイデーや
グリーンパーティの開催、各種の
講習会、それ以外にも、海外を含
む体験学習やコンテストなどが行
われております。また、ギャラリ
ー委員会は「短大ギャラリー」に
おいて学生から専門家までの絵画
彫刻等の作品展示など、国際交流
委員会は海外姉妹校交流、海外留
学の支援や女性に関する講演会な
どの、活動を行っております。本
学は女子大であります。性差に関
わりなく女性が活動できる場所
あります。以上の活動の中から
も、愛と奉仕に生き、社会に積極
的な貢献をなし得る覚醒した女性
となるもとを学び取っていただき
たいと、願います。

一方、実社会では、アメリカの
金融産業問題に端を発した経済混
乱が未だ収まらなかったとはいえない情
況です。しかし、学生である皆さん
に今いえますことは、地道に自

身を高めることでしょう。その目
標の一つが学士力でありましょう。
今、世の中では、いわゆる学士力
を高めることが必要であるとして、
文化、社会、自然等の知識・理解
を高める、コミュニケーション
キルや問題解決能力等の汎用的技
能を高める、倫理観、社会的責任
観やチームワーク、自己管理能力と
いったものを高める、総合的な学
習経験と創造的思考力を高めるこ
とが必要であるという意味の指摘
がなされていきます。そして、社会
人として実社会に入る前にキャリ
アー形成について学ぶということ
も要求されています。皆さんに
は、いたずらに狭い専門知識の習



得にのみ時間を費やすことは、お
勧めできかねることにあります。

本学の学生の皆さんは先に述べ
ましたように、多方面から多くの
ことを学ぶ機会が数多くあるとい
えます。しかし、皆さんが教室で
学ぶ一つの科目で扱われた内
容では、たとえ教育理念に沿った
ものであっても、すべてを網羅す
ることは出来ません。他方、それ
らは相互に関連し合って知の体系
をなしています。皆さんには、多
くの科目を学ぶ中から、自身で独
自に関連させ一つの知の体系を作
り上げていただきたいと、お願い
致します。同様に、皆さんの学生
生活においても、課外活動を始
め、周りとの交わりや社会との交
わりを通して経験する社会的内
容を、授業で学んだ事柄と関連さ
せ、自らが作り上げる知の体系を
再度組み立て直す努力も、必要で
あります。このことよって、自
身の知の体系が、叡智と表現され
るものにまで高められ、さらには
本学の教育目標にある社会に貢献
できる女性となるものとなること
でしょう。別の表現で申せば、学
問領域の知識の習得のみでなく、
それをもととし、さらに幅広く深

めることによって人生の基礎とな
る自己形成を目指してくださいと
いうことです。以上のことは、今
必要とされている学士力、社会人
基礎力といわれるものにも通じる
わけであります。自分の周りを見
てください。自分だけで完結して
いるものは何一つありません。生
活全般を見てもすべて周りに関わ
っています。決して狭い範囲での
世界に閉じこもらないようにして
ください。そして、自分は自分で
つくるものです。どこかに見つか
るものではありませんし、また学
生である間だけで簡単に実現され
るものでもありません。長い時間
をかけて社会との関わりの中で主
体的な努力によってつくられてゆ
くものです。学生時代に何を学ぶ
かの意味も実はここにあります。
学びの中で自分作りを謙虚に継続
し、青山学院らしい女性を目指し
てくださるよう期待いたします。

最後になりますが、皆さんが、
伝統あるわが青山学院女子短期大
学の学生としての誇りと自覚をも
って、積極的に日々の生活を送ら
れますことをお祈りし、以上を持
って入学式のお祝いの言葉といた
します。